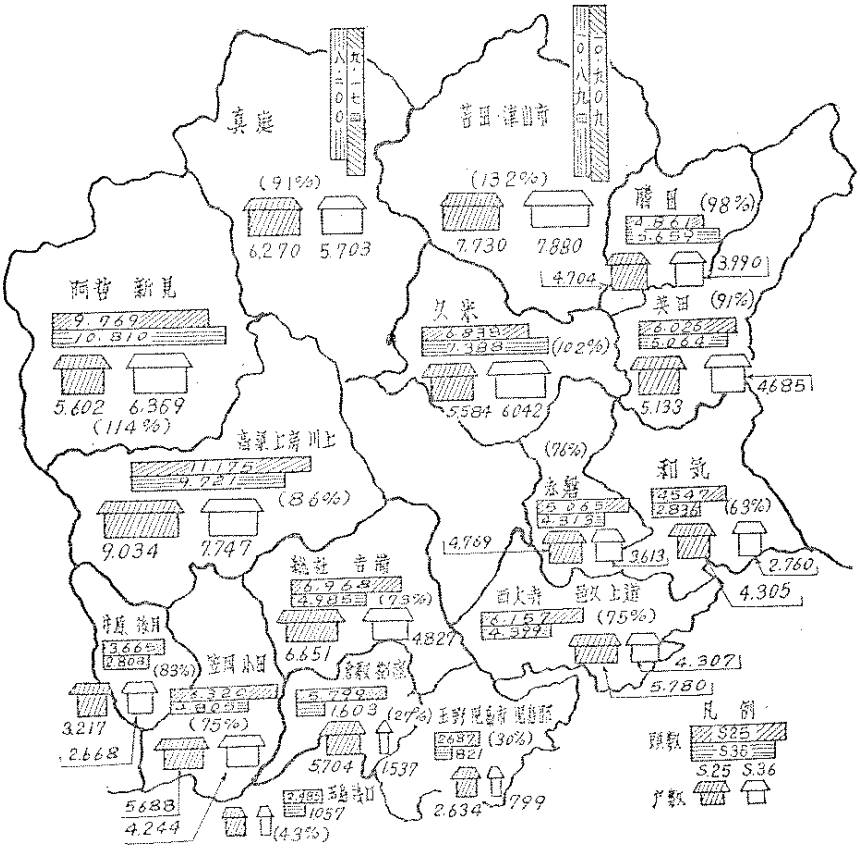
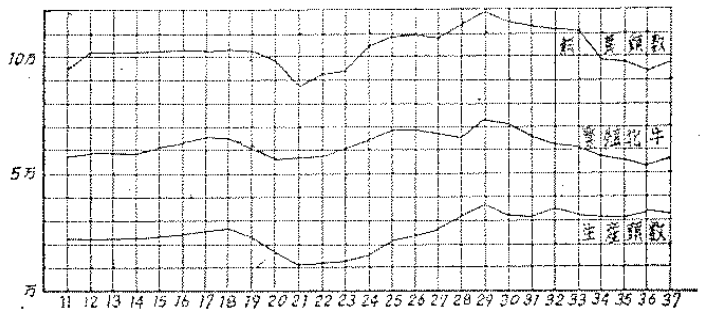
目でみる和牛

①和牛飼育頭数及び飼育戸数は、年々漸減の傾向があり、昭和 25 年と昭和 36 年との比較をみると飼養頭数で８％農家戸数で 11％減になっており、今後の傾向は予想以上のものがあると思います。
②県下全体的には、漸減傾向であるが、その状態も地域により多少相違しており、地区によれば反対に増加していることも、今後和牛振興に参考になると思う。増加して地域を見ると飼養農家戸数阿哲・新見 767 戸、苫田・津山市 150 戸、久米 450 戸。飼養頭数阿哲・新見 1,041 頭、勝田 798 頭、久米 1,050 頭
③特に県南部地帯の和牛の状態は急激な減少であるが一面肥育頭数は増加の傾向にあることが含まれている。然しこの速度は、県北部地帯に比較にならないものがある。